ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.

シートNO.

ボーリング名	No.1	調査位置				北　緯	36 ° 34 ' 08.0000 "
発注機関	栃木県宇都宮土木事務所			調査期間	2008-12-13 ～ 2008-12-17	東　経	139 ° 51 ' 43.0000 "
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	128.20 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 .00 °	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.00 °	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘進長	8.45 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
	127.60	0.60	0.60		盛土	暗灰			アスファルト:t=5cm，砕石(C80):t=15cm。深度0.20～0.60m付近は礫質土の盛土。径10～80mm程度の礫分が優勢で、有機質シルトが混じる。		
1	126.10	1.50	2.10		埋土(Fl)	淡灰～褐	緩い		礫質土による埋土。最大礫径30cm内外が混じる。凝灰岩(大谷石)類の岩屑が主体。		
2	125.20	0.90	3.00		表土(SF)	暗灰			礫混じり有機質シルトによる旧表土。砂分が混じる。		12/16 2.81
3	124.55	0.65	3.65		礫混じり砂質シルト(MS-G)	褐灰			深度3.15m付近に自然水位。軟らかい。含水量-高位。径2～50mm程度の礫が混じる。		
4 5 6 7 8	119.75	4.80	8.45		玉石混じり砂礫(GS-B)	褐灰～褐			被圧地下水位、深度2.81m付近。深度3.65～深度4.50m付近まで、径10～50mmの亜円礫主体。マトリクッスは粗砂よりなり、やや緩い。50cm程度の間隔で、径100mm～150mmの玉石が介在している。深度4.50～6.80mまで、ところどころに最大150mmの玉石が混じり、深度6.00m付近では、頻繁に玉石に当り、地盤状況も締まっている。深度6.80m以深では稀に玉石に遭遇する程度となり、径10～30mmの円礫が優勢となる。ややルーズな性状を呈しており、深度7.15～7.35m間は、泥水の逸水が多く、礫間の間隙が大きい。深度7.35mより、やや締まった地盤状況を呈するようになる。		

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	4	2	1	7／30	7
1.45					
2.15	1／18	1／14		2／32	2
2.47					
3.15	1	1	1	3／30	3
3.45					
4.15	8	8	9	25／30	25
4.45					
5.15	11	12	11	34／30	34
5.45					
6.15	14	15	23	52／30	>50
6.45					
7.15	4	4	7	15／30	15
7.45					
8.15	9	7	8	24／30	24
8.45					

原位置試験

深度 (m)	試験名および結果
4.00	透水試験 K=0.00218cm/sec
4.50	

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
1.15	1-1			
1.45				
2.15	1-2			
2.47				
3.15	1-3			
3.45				
4.15	1-4			12/13
4.45				
5.15	1-5			
5.45				
6.15	1-6			
6.45				
7.15	1-7			
7.45				
8.15	1-8			12/16
8.45				